



エールくん
すばらしいみやぎを創る運動
イメージキャラクター

エール

みやぎ
まちづくり
情報紙

2021.3 vol.66

すばらしいみやぎを創る協議会

《4つの県民運動》

1. 安全で安心なまちを創る運動
2. 心の通い合う地域を創る運動
3. 美しい生活環境を創る運動
4. 地域文化を大切にする運動

みやぎ花のあるまちコンクール

花づくりや緑の育成を奨励することにより「ふれあい」と「思いやり」のある人づくり・地域づくり、そして、美しいふるさと「みやぎ」づくりを目指し「みやぎ花のあるまちコンクール」を県と共催で実施しています。



新丁西よつば会(角田市)

例年とは異なる状況下の中、苗を植える際に人が行き交わないように、直列流れ方式で作業をするなど様々な感染症対策を講じながら花壇づくりを行いました。

また、花壇の設計図を作成し、苗の間隔を決めるなど計画的に植えた結果、デザイン性に富んだところが評価されました。(写真はオリンピック事前準備の為の楕円花壇)

今年度はコロナ禍の中でしたが、16件の応募がありました。
審査の結果、7団体が入賞しました。おめでとうございます!!



黄金自治会(涌谷町)



角田市西根4区行政区(角田市)

仮設住宅・災害公営住宅 コミュニティづくり賞

女川町大原北区(女川町)



イオンモール利府(利府町)



上原自治会(白石市)



登米市迫町森字吐出地区(登米市)

もくじ

表紙：みやぎ花のあるまちコンクール受賞作品

- すばらしいみやぎを創る運動功績者の紹介(団体の部)… 2
- すばらしいみやぎを創る運動功績者の紹介(個人の部)… 3
- 県民運動の紹介 …………… 4・5
- 犯罪のない安全・安心まちづくり県民運動 …………… 6
- コミュニティ助成事業の紹介 …………… 7

裏表紙：あなたのまちのコミュニティづくり

令和2年度すばらしいみやぎを創る運動功績者表彰

【団体の部】

やまもと語りべの会 (山元町)

防災意識を高めてもらうことを目的とし、町の施設などを回り、山元町の被災状況や復興状況を、自らの体験を交えながら説明する活動を行っています。

現在は19人で活動しており、年間2,000人以上を案内しています。今回は渡邊会長にお話を伺いました。



震災遺構中浜小学校の北側に

たなびいている黄色いハンカチ

「黄色いハンカチ」プロジェクトは震災時に全国からの支援に感謝の気持ちを伝えるために生まれました。現在は全国から山元町に対する支援や復興への想い等が掲げられています。



「当時はいろんな人をお願いされてガイドをやらしたね。」と話す、やまもと語りべの会の渡邊修次会長。
やまもと語りべの会が活動している山元町は宮城県の南部、福島県の県境に位置する人口一万二千人程度の町です。
今から十年前の二〇一一年三月十一日、東日本大震災が発生。震度六強の地震が町を襲い、津波によって町の四割が浸水しました。
震災後、山元町の被災状況について渡邊会長をはじめとした様々な立場の人が自らの体験、データ

等を頼りに震災体験を語っていました。しかしながら、経験則や個人の記憶に頼っていた部分も多く、時系列や数字が個人によってバラバラであったため、各人が持つ知識やデータを統一させるべきであると考え、二〇一三年十一月に「やまもと語りべの会」を設立しました。
これまでは個人や団体の依頼を受け、町内を巡りながら町の被災状況や復興状況を説明することが多かったのですが、昨年九月に県

南唯一の震災遺構である「震災遺構中浜小学校」が開館してからは、中浜小学校を見学に来た方からの依頼を受け、津波の恐ろしさや防災の重要性について説明する機会が増えました。今年一月には来館者が一万人を突破し、現在も多くの来館者が訪れています。

「やまもと語りべの会から聞いた話を『誰かに伝えます』と言われる時が一番嬉しいですね。」

防災活動で最も重要なことは、経験を次の災害に活かすことだと渡邊会長は考えています。

「東日本大震災以降も、日本では地震だけでなく台風や大雨による土砂災害、豪雪災害等の自然災害が毎年のように起きています。中浜小学校で起こったことを自分の地域や立場に置き換えて防災・減災について考えてほしい。

私たちの活動が、そのきっかけになれば。特に若い人に防災の知識を学んでほしいですね。」

やまもと語りべの会は現在、後継者の育成に力を注いでいます。中でも震災後、注目されることの多くなった「防災士」の資格取得してもらうため、資格取得のための諸費用の一部を負担しています。

今後は研修を受け、語りべの会の一員としての活躍が期待されています。

この援助によって、山元町では十代、二十代の若い

防災士が誕生しています。

「ぜひ、若い人には地域を知ることによって、町をもっと好きになってもらいたいですね。町、地域の強みや危険な場所、どのような年齢層の人がどのくらい住んでいるか等の知識がないと他の人に説明することはできませんから。」

今後の語りべの会の目標としては、町外はもちろん、町内に向けた案内をしたいとのこと。

「いずれは、町民全員が自分たちの町である山元町の魅力をガイドできるようにしたいですね。」

今後も震災の記憶や教訓を風化させずに次の世代に伝承し、防災・減災教育の発展に寄与されることを願っています。



震災遺構中浜小学校で説明しているやまもと語りべの会のメンバー

【安全で安心なまちを創る運動】
【心の通い合う地域を創る運動】
【美しい生活環境を創る運動】
【地域文化を大切に創る運動】

令和2年度すばらしいみやぎを創る運動功績者表彰

【個人の部】



すばらしい角田を創る協議会常任委員 東根地区振興協議会会長 **庄司 久男 さん**
 すばらしい角田を創る協議会会長 小田地区振興協議会会長 **武智 照道 さん**
 すばらしい角田を創る協議会常任委員 桜地区振興協議会会長 **玉手 信一 さん**
 すばらしい角田を創る協議会常任委員 角田地区振興協議会会長 **高橋 輝昭 さん**
 すばらしい角田を創る協議会常任委員 西根地区振興協議会会長 **佐藤 弘 さん**

角田市からの受賞者5名は行政市長就任後、各地区振興協議会会長及びすばらしい角田を創る協議会役員として地域の先頭に立ち、長年に渡って積極的に運動の普及・推進、各種事業を展開してきました。今回はそれぞれの活動やこれからのまちづくりに対する思いを伺いました。



各地域の会長が集まり、それぞれの活動について語り合った

角田市は宮城県の南部に位置し、自慢の種は角田の五つの「め」「米」「豆」「梅」「夢」「姫」。これは豊かな食やJAXA角田宇宙センターなどをシンボルとする宇宙や未来への夢、伊達政宗公の次女で伊達家一門筆頭右川宗敬公に嫁いだ牟宇姫（むうひめ）をシンボルとした歴史文化を表すキーワードです。

運動功績者表彰を受けた五名に、今までの活動やまちづくりに対する思いを伺いました。

これまでの活動を振り返って

（武智）小田地区は斗蔵山を有し、山道には紫陽花が植えられ、大切な地域資源がある。年に一度の「とくら祭り」ではたくさんの方々に地域の魅力を発信してきた。自治活動を活性化するためにポイントカードを検討するなど、試行錯誤の日々だった。

（庄司）東根地区で活動を継続でき



はつらつとした姿の各地域の会長

たのも周りの方々のおかげだと思っている。そんな自助共助の精神が地域のコミュニティ維持には欠かせないはず。また、世代間の交流が益々必要だと感じる。「ひがしね夏まつり」の復活も若い力に支えられた。

（高橋）振り返れば「温故知新一の思いで地域に関わり、様々な事業に取り組んできた。角田地区では年に二回ウォーキング大会を実施している。それをきっかけに地域を知り、学ぶことで郷土への関心を高めることにつながったと思う。

（玉手）出来ることから始めた軽トラ市や地域マップ作りは大変盛り上がった。さらに、「桜地区ウォーキング&食まつり」を企画。最初は不安の声もあったが、大盛況。地区民の力が集結し、横断的なコミュニケーションの機会になった。

（佐藤）西根地区は田んぼアートやホタル祭りなど住民活動がとても盛んだ。皆、地域への意識が高く、周りに助けられながら楽しく活動してきた。しかし、継続していくことはとても大変なこと。西根地区の高齢化率は五割近い。

これからのまちづくりに思いを

（佐藤）自然災害も多く、ひとりひとりの防災意識が高まっている。

（高橋）昨年の台風一九号のあと、すぐに防災講座を開催。地域住民の関心の高さを感じた。

（玉手）地域全体として自主防災組織連絡協議会を新たに立ち上げ、横の連携を図れるように環境を整えた。

（庄司）若者たちとの関わり合いがこれから重要だ。諦めず、若い世代と気持ちよく一緒にこれからの地域を考えていくために試行錯誤すべきだと思っている。

（玉手）若い方々は仕事に家庭に忙しい。しかし、地域づくりに関するアンケート等を通して意見を取り入れ、持続可能な地域づくりにつながりたい。

（武智）取り組みたいのは地域みんなで子どもたちを育てていく環境づくり。まずは自治センターを拠点に地域内の多世代交流の機会を作っていくきたい。

（佐藤）これまでの十年で社会は大きく変化している。人口は減り、高齢者も身体が動くうちは働くようになっている。前例踏襲を打破し、新しい地域づくりにシフトしていく必要性を感じている。

各地域のリーダーの熱い思いが伝わってくるようなお話を伺うことができました。

地域の老若男女が、力を合わせてよりよいコミュニティづくりに邁進できることを願います。

令和2年度すばらしいみやぎを創る運動功績者・団体（50音順）

個人の部

- 吾妻 徳克さん(気仙沼市)
- 渥美 耕太郎さん(東松島市)
- 伊東 卓夫さん(気仙沼市)
- 熊谷 美都子さん(仙台市)
- 佐藤 弘さん(角田市)
- 庄司 久男さん(角田市)
- 鈴木 博さん(気仙沼市)
- 高橋 輝昭さん(角田市)
- 高橋 護さん(塩竈市)
- 武智 照道さん(角田市)
- 玉手 信一さん(角田市)
- 山家 昭夫さん(蔵王町)

団体の部

- 栗原市築館生活学校(栗原市)
- やまもと語りへの会(山元町)

県民のつどい

安全・安心まちづくりフォーラム



「みやぎを創る運動「県民のつどい」らづくりフォーラム」
 宮城県・すばらしいみやぎを創る協議会

すばらしいみやぎを創る運動の推進、

安全・安心なまちづくりを目指して



今年で第五十四回を迎えたすばらしいみやぎを創る運動「県民のつどい」安全・安心まちづくりフォーラムが令和二年十一月十七日にホテル白萩で開催され、県内各地からまちづくりリーダーや防犯団体関係者などが参加しました。

冒頭の表彰式では、長年にわたり運動に功績のあった十二名と二団体が表彰されたほか、本年度の「みやぎ花のあるまちコンクール」の入賞七団体に、鎌田会長から表彰状と記念品が贈られ、その栄誉が称えられました。

引き続き行われた活動紹介では、特定非営利活動法人鳴子の米プロジェクトエクト理事長の上野健夫様より、「地域ので地域の農業を守る挑戦」と題してお話をいただきました。過疎化・高齢化が著しい山間地の農業を持続可能な仕事として成り立つような作り手と食へ手の新しい信

頼関係の構築をつくり「ゆきむすび」という地域独自の米を栽培することによって、都市と農村の交流、学生や若者と協働した事業の運営、「むすびや」の運営など、地域を巻き込んで地域の活性化に挑戦している活動の紹介をいただきました。

活動内容に心を打たれた参加者も数多く、開催後のアンケートでは大多数の方々より「良かった」の回答を頂き、「今後も頑張ってください。応援している。」等数多くの温かいコメントが寄せられました。

また、その後に行われた記念講演では、東北福祉大学特任准教授 金義信様より「広げよう地域力を活かした防犯活動の輪く地域資源を活用した防犯ボランティア活動の可能性」と題して防犯についての講話をいただき、継続して取り組むことのできる防犯活動等の事例を御紹介いただきました。

あしたのまち・
 暮らしづくり活動賞
 内閣官房長官賞受賞
 を受賞されました

特定非営利活動法人 鳴子の米プロジェクト

地域が直面するさまざまな課題を自らの手で解決して、住みよい地域社会の創造をめざし、独自の発想により全国各地で活動に取り組んでいる優れた住民集団・企業を顕彰する「あしたのまち・暮らしづくり活動賞」において内閣官房長官賞受賞されました。その活動の概要を紹介します。



近年、急速に進行する農村の過疎化や高齢化に伴って、農地の耕作放棄地が拡大しています。そもそも、中山間地における小規模農業は、生産効率が悪く、収量も少ない上に、気候条件も厳しく、米づくりをやめてしまう人が後を絶ちません。



このような状況の中で、中山間地の小規模農家が持続していくための仕組みづくりを、地域の様々な業種の枠を超えて連携して、試行錯誤しながら活動しているのが、「特定非営利活動法人 鳴子の米プロジェクト」です。

主な四つの活動を紹介いたします。

一つ目は、寒冷地でもよく育ち、おいしいお米「ゆきむすび」を十五名で約十四ヘクタールの田んぼで栽培し、予約していただいている全国九百名の皆さんに販売しています。また、東京の「おむすび権米衛」の二店舗にもお米の供給を行っています。

二つ目は、ゆきむすびの栽培を通して、消費者との交流・田植交流会・稲刈り交流会を毎年実施しています。

三つ目は、「ゆきむすび」を多くの皆さんにおいしく食べていただくためのおにぎり専門店「むすびや」を運営しています。

そして、四つ目は、中学生や高校生をはじめ大学生など、農業を学びたい若者たちに学びの場を提供するとともに、研修の受け入れも行っています。

昨年からコロナの影響で、交流会をはじめ様々な事業に支障をきたしています。「むすびや」も現在はテイクアウトのみの営業ですが、多くの皆様にご利用いただいております。一日も早い終息を願うばかりですが、自由に外出できるようになりましたら是非農作業の体験や「むすびや」にもお越しください。

これからも、地域の農業が元気に継続するよう頑張っていきたいと思っています。



すばらしいみやぎを創る運動の実践を率先して行う推進委員の資質向上を図るため、令和二年十月二十三日に県北会場（石巻合同庁舎）にて、令和二年十月三十日に県南会場（大河原合同庁舎）にて「すばらしいみやぎを創る運動推進委員研修会」を開催しました。

推進委員や町内会・地域づくり団体など、「明るく住みよく、安全で安心な地域社会の実現」を目指し、様々な活動を実践している方々や関係各所からの参加者が聴講されました。

令和2年度 すばらしいみやぎを創る 運動推進委員研修会

○研修会【10月23日・10月30日開催】

第一部 つるが元気会 NEXT50鶴ヶ谷団地再生委員会

会長 菅原 敏之 様

演題「明るく元気な鶴ヶ谷を～つるが元気会発会から

～解散まで そして次の50年に向けた街づくり活動を!!～」

第二部 宮城県環境生活部共同参画社会推進課安全・安心まちづくり推進班

主任主査 永野 良樹

演題「安心・安全なまちづくりについて」

すばらしいみやぎを創る協議会では、率先して復興支援活動に取り組む関係団体へ活動費の助成を行いました

宮城県中学校長会 (石巻市立河北中学校)

石巻市立河北中学校では、12月に学区内の独居と施設に入居されている高齢者の方へ、日頃の支援に対する感謝を伝える手紙と来年の干支の置物、そして災害への備えをしていただくために防災キャンドルと防災合言葉入りティッシュを贈りました。



すばらしいおながわを創る協議会 (女川町生涯学習課内)

女川町の清水地区は、女川町の北側に位置し、東日本大震災では多くの家屋が津波に飲み込まれました。今は造成された土地に住宅が再建され、新たに地域のコミュニティづくりに取り組んでいます。

三世代の交流も盛んで、今回もみんなで花植えを楽しみました。



上記団体の他、日本赤十字社宮城県支部が行った気仙沼市鹿折南住宅自治会館「復興お茶のみ会」にも助成を行いました。

すばらしいみやぎを創る運動を実践している団体「宮城県生活学校連絡協議会」事業紹介

宮城県生活学校研究交流集會を開催

宮城県生活学校連絡協議会とは

生活学校とは、主婦の立場から身近な生活・地域課題を「対話」によって解決していくことを目指して昭和40年にスタートしたもので、現在では男性のメンバーも加わって活動しています。

宮城県生活学校では、令和2年度の基本テーマに「高齢者の居場所づくりと子育て支援」「登録制出前講座（講師派遣）の推進」「食品ロス削減の普及啓発」「東日本大震災からの復興支援活動の実施」を掲げ活動しています。

※各地域の生活学校登録メンバー、新規の生活学校開設の団体を募集しております。

詳細は、すばらしいみやぎを創る協議会事務局までお問い合わせ下さい。



祝前会長の挨拶



展示物を見学する参加者

生活学校以外の人たちにも参加してもらい、生活学校に入りたくなる魅力的な内容にすることを目的に、令和二年九月二十九日に東京エレクトロンホール宮城にて「生活学校フェア2020」を開催しました。

展示物コーナー及び体験コーナー（①英字新聞エコバック作成ブース ②マスク作成ブース ③丸底巾着・匂袋作成ブース ④ヨガ体験ブース ⑤鶴の小物入れ作成ブース）を設け事業の紹介を行いました。

犯罪のないみやぎ 安全・安心まちづくり県民運動

宮城県では、「犯罪のない安全・安心な地域社会の実現」を目指した県民運動を推進しています。

安全に安心して暮らすためには、自治体や警察の活動に加え、県民の皆さんが、「自らの安全は自らが守る」、「地域の安全は地域で守る」という意識をもってまちづくりに取り組むことが重要です。県民の皆さん一人ひとりが協力して、安全・安心まちづくり県民運動を進めていきましょう。

犯罪の起きにくい環境づくり

犯罪者は「誰かに見られないか・見つかっても逃げやすいか」等を考え、犯罪をしやすい場所を探しています。小さな無秩序を放置している地域は、防犯意識の低い地域と見られ、犯罪者に狙われます。

防犯活動を難しく考える必要はありません。

買い物・散歩・ガーデニング・通勤など、日常生活を送りながら、少しでも防犯の意識を持って地域を見守り、気になることはすぐ警察に通報しましょう。



地域を点検してみよう

- ☑ 高い塀や庭木・街路樹が茂って見通しが悪い
- ☑ 落書きがある、ゴミが散乱している
- ☑ 路上駐車が多い、放置自転車がある
- ☑ 照明が少ない、人目につきにくい
- ☑ 広告物が氾濫している、ゴミ出し等の地域のルールが守られていない

「安全・安心まちづくり地域ネットワークフォーラム」を開催しました。

■令和2年10月22日(木)

■宮城県大崎合同庁舎1階大会議室

基調講演
仙台大学
田中
准教授
智仁
様



安全・安心まちづくり活動に取り組む防犯団体、学校関係者、自治体、警察などが集まり、情報交換や事例発表を行うフォーラムを開催しました。

新型コロナウイルス感染防止対策を講じての開催となり、マスクの着用、ソーシャルディスタンスを確保した上での開催となりましたが、基調講演では、仙台大学体育学部准教授の田中智仁様から「子どもを犯罪被害から守るための基礎知識」を学び、交流会では参加者それぞれの立場での問題点や意見を出し合うなど、実りあるフォーラムとなりました。

迷惑電話撃退機能付き電話機の実演



開催の様子



交流会の様子



コミュニティ助成事業とは

皆さんは、これまでにジャンボ系宝くじ(年末ジャンボやサマージャンボ等)を購入したことがありますか?購入したことがないという方でも、1等が当たったら何をしようか、一生遊んで暮らせるかな?等、お友達やご家族と、そんな話題に花を咲かせたことが一度はあるのではないのでしょうか。

十人十色の夢を描き、巨額の当選金を夢見て、当選番号を追いかける目にも力が入りますよね。

さて、このように日本全国でたくさんの方々が購入している宝くじですが、その売上金がどのように使われているのかまでご存じの方は、意外と少ないのではないのでしょうか。

実は、売上金の一部は、皆さんの身近なところに使われているのです。このキャラクターは、宝くじのマスコットの「クーちゃん」です。クーちゃんが描かれている物や建物、遊具等は、宝くじの売上金で購入・整備したという

目印になっています。

皆さんが普段利用している公民館や、公園等、地域の皆さんが集まってコミュニティ活動する場所でクーちゃんを探してみてください。きっとすぐに見つかるはずです。

町内会等のコミュニティ組織であれば、市町村を通して申請すれば、宝くじの売上金の一部を助成金として受け取ることができる可能性があります。もちろん、助成金で購入した備品や建物には、目印としてクーちゃんを目立つ場所に表示しなければいけません。

助成金でコミュニティ活動を活発にしたいという町内会等の団体の皆さんは、まずは市町村の担当課に相談してみてください。

※宮城県庁や自治総合センターへ直接申請することはできません。



※画像イメージのように、どのような形のものであっても、整備した備品にはクーちゃんのイラストを表示しなければなりません。

気仙沼市 鹿折南住宅自治会

気仙沼市は宮城県の北東端、岩手県との県境に位置しています。太平洋に面した沿岸域は、半島や複雑な入り江など、変化に富んだリアス式海岸を形成し、気仙沼湾は、四季静穏な天然の良港として栄えてきました。

現在、気仙沼市の人口は、約61,000人で、204の自治会が活動しています。その中で、震災後に建設された災害公営住宅である市営鹿折南住宅約270世帯の入居者により構成されているのが「鹿折南住宅自治会」です。

当自治会では、平成29年の設立以来、気仙沼市錦町コミュニティセンターを拠点に、グラウンドゴルフ、生け花、麻雀等、様々な交流事業を展開し、会員相互の親睦を図ってきました。また、住宅共有部分の清掃や敷地内の芝・草刈りなど、地域内の環境衛生・美化活動にも積極的に取り組んでいます。



昨年度の採択事業の一例をご紹介します

今年は新型コロナウイルスの感染拡大によりこれまで通りの活動を行うのが難しい状況ですが、三密の回避、こまめな換気、マスク着用など、会員一人ひとりが“新しい生活様式”を徹底し、慎重かつ柔軟に活動を継続させています。

このように、活発に活動している当自治会ですが、構成員には高齢者が多く、広範囲の芝・草刈り活動がとても大きな負担となっていました。また、設立以降活動を展開していく中で、新たな備品も必要になっていました。

今回の助成では、芝刈り機や草刈り機その他、活動記録用のカメラ、屋外活動用(地域で毎年開催される盆踊り大会等)の投光器や発電機等、活動に必要な備品を整備しました。これにより、芝・草刈りの負担は大幅に軽減され、また、整備した備品を活用して事業をより幅広くできるようになるなど、これまで以上に円滑に活動ができるようになりました。

今後も地域住民の活発な交流を図るべく、より一層コミュニティ活動を充実させていきたいと考えています。



あなたのまちの コミュニティづくり



皆さんの地域の町内会や自治会などでは、環境美化などのコミュニティ活動が盛んに実施されていることでしょう。そのような活動の中で、こんな施設や備品があったら、もっと活動が活発になるのにも思ったことはありませんか。

一般財団法人自治総合センターでは、宝くじの受託事業費を財源とし、市町村を通じて、地域の町内会、自治会の活動への助成を行っています。

コミュニティセンター 助成事業

地域住民の共同活動の拠点となる多目的な総合施設の整備事業への助成です。コミュニティセンター新築、修繕及びその施設に必要な備品などが対象となります。

加美町(小泉区)



一般 コミュニティ 助成事業

地域的な共同活動に必要な施設・設備の整備事業への助成です。



環境美化・文化学習・
体育・レクリエーション
など様々な活動で使用
する備品が対象と
なります。

青少年健全育成 助成事業

青少年の健全育成を目的に地域
で実施する親子参加型のソフト
事業への助成です。



各種野外活動の実施、
スポーツやレクリエーション
大会の開催などが
対象となります。



宮城県環境生活部共同参画社会推進課

電話 022-211-2576

ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kyosha/comijyo.html>

または、各市町村コミュニティ担当課までお気軽にお問い合わせください。(仙台市を除く。)

本事業に関する
お問合せは

令和3年3月発行 第66号

発行/すばらしいみやぎを創る協議会

仙台市青葉区本町三丁目8番1号 宮城県環境生活部共同参画社会推進課内

TEL 022 (211) 2576 FAX 022 (211) 2392